

青葉通駅前エリアのあり方検討協議会
第7回ワーキンググループ 議事概要

日時 令和4年7月5日(火) 9:45~11:30
会場 仙都会館8階会議室
議題 利活用編：社会実験の概要について
第2回市民参画イベントの報告について
交通処理編：社会実験期間に実施する調査の実施項目について

配布資料 次第

- 【資料A】 本日の座席表
- 【資料1】 青葉通駅前エリアのあり方検討協議第7回ワーキンググループ利活用編
- 【別紙1-2】 これまでの経緯を踏まえた社会実験の内容
- 【別紙1-3】 実験コンテンツ案
- 【資料2】 青葉通駅前エリアのあり方検討協議第7回ワーキンググループ交通処理編

○主な意見等

【利活用編】

- ・資料1-2 利活用のコンセプトについて、社会実験を何のために実施するのかという点、仙台市全体、街全体をサステイナブルな形で発展させ、また、公共交通を利用して、仙台駅前に人が多く集まり、街中を回遊してもらうためである。
- ・別紙1-3の視点3について、旧さくら野壁面等の利活用について、壁面を使って何をするのかを事前に周知・確認する機会を設けてほしい。
- ・利活用コンセプトの「ひととなり」という表現に違和感があるため、確認いただきたい。
- ・今後のまちづくりを考えたときに、今回の社会実験は関係各社としても重要であると感じており、今後の街を想像しながら本協議に参加したい。
- ・アンケートと情報発信については、利活用と交通処理で連携して実施する必要があると考えているが、調整可能していただきたい。
- ・仙台駅西口は、パルコやロフト、様々な商店などが立地しており、コロナ前は活況を喫していた。
- ・交通面では、バス、地下鉄、鉄道、新幹線等の重要な結節点であることから、仙台駅前には既に人が集まっていると考えている。この地域にさらに人を集めると、この地域にのみ人が集中してしまい、他の地域に回遊させることが不可能になるのではないかと考えている。
- ・通勤で定期券を所有している親と土日に親子で地下鉄に乘車すると、子供の乗車料金を割引する施策を過去に実施していたことがあるため、公共交通を利用した際の金銭的なメリットを利用者が享受できるとよいのではないかと感じている。

- ・確かに仙台駅前に人を集めることは、点としての発展となり、魅力的な街とは言えない。
- ・仙台駅前へ来る交通手段が公共交通中心となれば、滞在時間・消費金額を高め、環境負荷を下げることができるので良い案であると感じている。
- ・仙台駅前に更に人を集めることは可能であると感じており、公共交通を利用してれば、駅前に来る前に、定禅寺通や一番町等を経由する方もいるので、そこで回遊が生まれると考える。
- ・仙台駅前のみの一極集中となってしまうと、街としての魅力は高いと考えにくいことから、街の中で、東京の代官山エリアや、巣鴨エリアのように、各地区に多様性を持たせてもよいのではないかと感じている。
- ・公共交通における金銭面でのインセンティブについては、検討する必要があると考えている。また、現在のバス路線案内等については、行先や経由地が分かりにくいと感じており、街中全体の活性化を考えると改善する必要があると感じている。
- ・仙台駅前には既に人が集中しており、今回の社会実験を実施すると、更に人を集めることになると考えている。現在の案では回遊性を持たせるための施策としては乏しいのではないかと考えている。
- ・一番町、国分町方面の発展をお願いしたい。
- ・仙台駅前のあり方検討については、既に定禅寺通でも検討している内容と同様に、今までは車道に多くの空間を割いていたものを歩行者空間として再整備し、再び仙台の顔となるようにするものと感じている。
- ・仙台市は目的地にのみ立ち寄る割合が他の地域と比較して高いことから、回遊性についての工夫が必要と考えている。また、地下鉄やバスを整備した後、青葉通を歩行する方が減少したことから、利活用と交通政策を同時に考える必要があると感じている。
- ・他の地域から訪れた方からも、仙台の顔だと言えるように整備することが必要と感じている。
- ・公共交通を用いて中ハブや小ハブに誘導するための施策が必要である。サイネージ的なもので、泉パークタウンや長町南などの中ハブへ誘導する策が必要ではないか。
- ・地下鉄があることで人が集まっていると感じており、バス・タクシーを用いた手法で人を集めることは難しいと感じている。
- ・青葉通を通行止めにする話に注視してしまうが、藤崎百貨店から西公園の区間及びアーケードにどのように人を集めるのかが重要であると感じている。
- ・社会実験に伴うイベントを実施した際の波及効果については、更に検証する必要があると感じている。
- ・社会実験を行うのは、まだ、時期尚早と思っている。
- ・仙台駅前の再開発が行われ、人流が増えたことに対して、どのような空間を用意すれば魅力的な空間となるのかという観点も含めて検討が必要と考えている。
- ・社会実験時のイベントを充実させることが重要であると感じている。また、現在の検討で

は、交通を規制して、どのように車を流すかをメインで検討していると感じるため、交通をどのように利用するかといった観点も重要である。

- ・ 県外から訪れた人は、バスの案内が分かりにくいと感じていることから、今回の社会実験を実施しても、特に回遊性の向上につながるとは考えられない。
- ・ 将来ビジョンについては、地権者と協議のうえ決定いただきたい。
- ・ もう少し青葉通の狭いエリアで考えてもよいのではないかと、それが本協議会の目的であるのではないかと。
- ・ タクシー・バスは必要不可欠なものであるため、すぐに乗車できるよう、乗車位置や目的地などの案内を改善する必要があると考えている。
- ・ 東日本大震災のときは、道路やペDESTリアンデッキに人が溢れたため、安全の確保が第一ある。そのうえで、日常のオアシスづくりを行う必要があるため、まずは基本的なところを押さえてほしい。
- ・ 社会実験期間中においては、災害時の安全性までは触れなくて良いと考える。駅前の広場化が恒久的なものとなった場合に限り必要と感じる。
- ・ 広報の発信が重要であり、戦略的な打ち出しが必要と考えている。ホームページや SNS での広報のみに限らず、検討段階のストーリー等についても関心を持ってもらえるような発信が必要であると感じている。
- ・ 中心部の回遊性について、仙台駅前の一極集中などの議論があったが、10 年前に商店街で実施した歩行者の発地・着地の意識調査では、一番町と仙台駅間を回遊していることが確認された。仙台駅前の 7 商店街で、中心部全体を活性化するための協議会を発足し、回遊を促す検討を行っている。
- ・ 通行量調査の結果から、歩行者数は仙台駅前のみ増加しているのではなく、都心全体で増加しているため、現段階においても一定程度の回遊性は確認されていると感じる。
- ・ 街中を歩いて移動するようになる策があるとよいと感じている。定禅寺通と青葉通を歩いて移動したいと思うようなまちづくりをお願いしたい。
- ・ インバウンドは大事なキーワードだが、東北へのインバウンドが圧倒的に少ない。仙台を訪れた外国人も、仙台駅から降りずに松島等に移動しているのが現状であり、もったいないと感じる。まず、街中に来てもらって、その後、観光地へ行くという仕組みをつくりたい。

【交通処理編】

- ・ タクシー乗り場については、移転ではなく、休止ということによいか。
- ・ 社会実験実施区間の通行可能車両について、路線バス・タクシーとするようになっていたが、事業用のバスについても、通行可能としていただきたい。
- ・ 社会実験期間中、エデン側のバス停の一部をほうげつビル前に移転する案については、利用者の利便性低下につながると感じていることから、どの方面のバス路線をほうげつビ

ル前に移動する予定なのか教えていただきたい。

- 社会実験時の視点について、以前はエデン前のバス停をすべて旧さくら野側に集約する案であったが、現在は一部を分散させる案となっているため、視点の表記については、精査していただければと考えている。なお、検証の視点については、現状で問題ないと考えている。
- バス停の移転については、事前の周知をお願いしたい。
- 社会実験の運用等について、検討されているとのことなので安心してほしい。
- バス停の一部をほうげつビル前に移転するとすると、利用者への案内が必要となるので、引き続き協議をお願いしたい。
- 資料2の19ページについて、仙台駅からバスで移動する人が迷うと思うので、誘導員の配置をお願いしたい。
- 一般車両のドライバーへのアンケートについては、社会実験が終了した後では、忘れてしまうことが考えられることから、社会実験期間中に実施する必要があるのではないか。
- 交通規制に関する広報については、東北6県を含めて、念入りに実施をお願いしたい。
- 「荷捌き車両調査」との記載について、「搬入車両調査」に修正した方が、表現が適切だと考える。
- 何を論証するための社会実験なのかということを、もう少し詰める必要がある。
- 何を検証するための社会実験であるかのイメージを具体化しつつ、その手段としてこの社会実験が適切であるのかを詰める必要がある。

以上